

第7章 平和・学習拠点整備の展開方策

第7章 平和・学習拠点整備の展開方策

1 施策展開の方向

地域まるごと博物館（オープンエアミュージアム）としての目標像である『館山歴史公園都市』を踏まえ、近代戦争遺跡を活かした平和・学習拠点を実現するための施策の方向（メニュー）を次のように設定する。

平和・学習3拠点の核と関連遺跡（拠点内資源）のネットワーク形成

A、B、Cの拠点地区の核の設定と周辺遺跡の整備・関連づけ。
歴史体験（陸・海）コースの整備（平和・戦争追体験コースの整備）
駐車場、トイレ等インフラの整備

A地区の核 赤山地下壕（戦争追体験壕整備）（「主要事業」参照）

B地区の核 洲崎第一砲台跡一帯（展望公園整備）

- ・東京湾要塞展望公園整備
- ・東京湾要塞展望台（東京湾要塞配備か所の遠望、情報提供等）
- ・戦跡遊歩道
- ・映像入り案内板の整備
- ・案内資料の作成
- ・駐車場（駐輪場）・トイレ等基盤整備
- * 対馬豊砲台、壱岐黒崎砲台、鶴見崎砲台事例

C地区の核 館山砲術学校跡（遊歩公園整備）

- ・砲術学校追体験コースの設定
- ・学校総合案内板・案内標識等の充実
- ・駐車場（駐輪場）・トイレ等基盤整備

市民レベルでの歴史学習、平和学習の強化と交流の促進

学校教育における総合学習への組み入れ
戦争遺跡を題材とした生涯学習講座の開設
戦争体験者をはじめ、市民参加による歴史・平和学習プログラムの整備
戦争遺跡を介した国際的視野での平和交流の促進

戦争遺跡の意味を正確に伝える内外への情報受発信と利用促進策の強化

戦争遺跡の悉皆調査による台帳の作成と正確な意味、内容の情報化
戦争遺跡の電子情報化を含む案内機能の整備と情報公開
歴史観光案内を含む戦争遺跡等ガイド（ボランティアガイド等）の育成と活用
戦争遺跡情報ツール（マップ、パンフレット等）の整備
観光交流と連携した利用促進方策の展開（宣伝PR、イベント等）

戦争遺跡群3拠点と周辺観光拠点とのルート化・ネットワークの形成

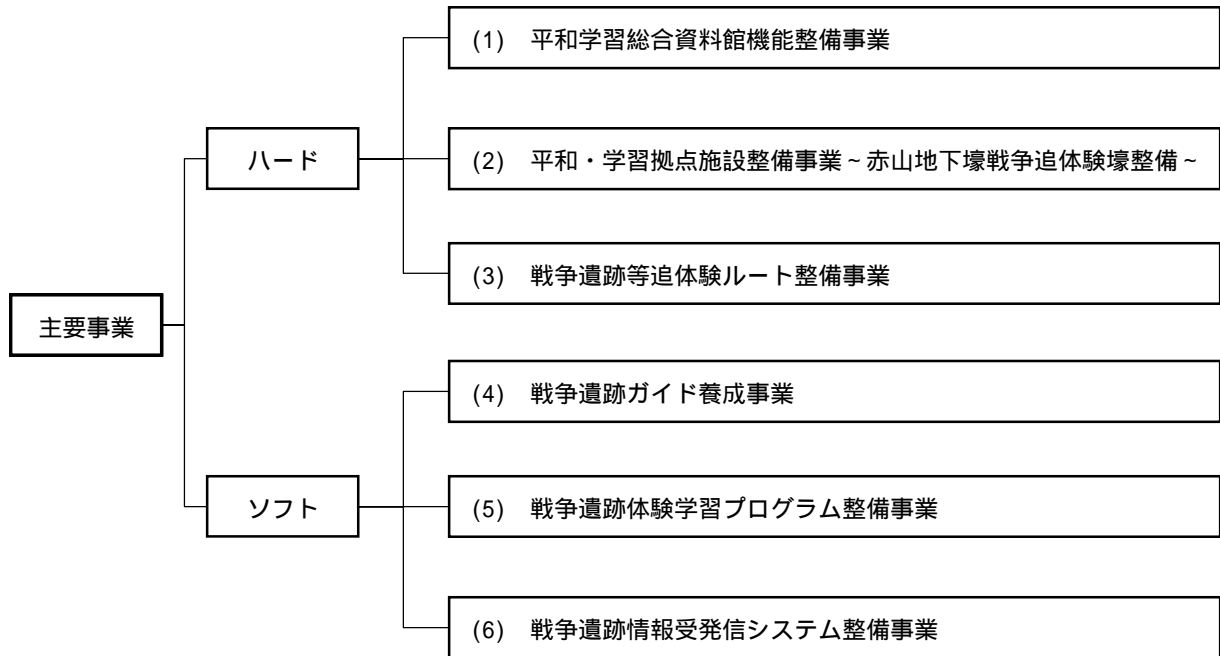
戦争遺跡等と連携した観光拠点の整備（既存観光拠点の関連機能整備等）
歴史追体験コースの整備（歴史追体験道路・駐車場等の整備）
バスシステム、レンタサイクル等交通アクセス手段の整備
案内板・案内標識の整備（サインシステムの整備等）
戦争遺跡等歴史体験マップ、リーフレット等情報ツールの整備

戦争遺跡保存の重要性、緊急性、可能性からみた保護・保全策の推進

遺跡保存対策（所有権移転、資源消滅対策）、物理的安全対策からみた保全対象の選定と対策の立案
文化財指定をはじめ、戦争遺跡の公園指定等保護・管理根拠の明確化
公的保全体制の確立と地権者等民間関係者との連携システムの形成

2 主要事業の設定

市民にとっての歴史遺産としての戦争遺跡の重要性の認識を基本に、文化財価値を軸として観光交流資源価値を加味した重要性、遺跡保存・修復等の緊急性及び保存・活用の可能性の判断から、次の主要事業を設定する。



(1)は、本市の戦争遺跡群を情報化し、歴史・平和学習や歴史観光の拠り所となる全市的な近代戦争遺跡の資料館機能の整備事業である。

(2)は、平和・学習拠点施設整備事業（赤山地下壕戦争追体験壕整備）である。「施設整備事業」と呼称したのは保存・活用のための壕自体の安全対策や案内機能などの整備を含むためである

(3)は、戦争遺跡を追体験するルート整備事業である。これは戦争遺跡だけでなく、本市の歴史、文化や産業との複合ルートも念頭に置いたネットワーク事業である。

(4)は、戦争遺跡のガイド（インタープリター）の育成事業である。戦争遺跡は情報提供でその内実や客観的な意義が理解できるので、戦争遺跡と個々の学習者を解説によって媒介する人材を育成する。

(5)は、戦争遺跡の具体的な地域学習や歴史観光プログラムで、 のガイドと関連づけた事業である。

(6)は、市民による戦争遺跡の保存継承や平和学習活動を中心に据えた学習情報の整備や情報受発信及び交流事業である。

3 主要整備事業の展開

(1) 平和学習総合資料館機能整備事業（ハード）

| | |
|----------------------|--|
| <p>目 的</p> | <p>平和・学習拠点機能の整備によって、市民の戦争遺跡の保存・継承と平和学習活動の拠点を育成し、併せて観光・交流客に対する歴史観光、平和学習旅行の情報提供・PR拠点を形成し、近代戦争遺跡を活かした「歴史公園都市」の魅力の創出を狙う。</p> |
| <p>方 向</p> | <p>整備の方向は、本市の立地に即して、歴史的経緯の中で整備された近代戦争遺跡を、客観的に情報化して伝達できる資料館機能の形成を目指す。 具体的には、市民にとっての身近な平和学習の拠点、かつ観光・交流客にとっては、歴史観光や学習旅行の拠点として整備・運営を進める。</p> |
| <p>内 容</p> | <p>資料館機能は以下のものを整備する。これらは、整備方式によって全面的に機能を整備する方向から部分整備まで幅がある。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[機能構成] --> B[戦争遺跡資料展示機能] A --> C[戦争遺跡学習機能] A --> D[レクチャーホール(会議)機能] A --> E[資料収蔵庫機能] A --> F[ミュージアムショップ機能] A --> G[管理機能] A --> H[トイレ・駐車場等基盤機能] </pre> </div> |
| <p>事業推進 の考え方</p> | <p>整備主体：館山市（主導） 機能配置：当面、市立博物館（中長期的には、別案も検討）</p> <p>（注1） 配置代替案 既存市立博物館への機能付帯案 戦争遺跡の活用案（案：赤山地下壕、その他民間倉庫等戦争遺跡を活かした機能整備） 新規資料館施設の整備案</p> |

| | | | |
|--|----------------|---|---|
| 事業推進 の考え方 | (注2) 代替案別の特性比較 | | |
| | 整備代替案 | 長所 | 短所 |
| | 既存 | <ul style="list-style-type: none"> ・市の行政財産で・空きスペースがあるのですぐ利用できる。 ・博物館が展示等再編の時期にあるので併せて展示が可能。 ・館山市の歴史展示の中で一貫した位置づけで学習できる。 ・現体制で専門的な情報化が実施できる。 ・既に市民、観光交流客の拠点施設で、基盤もしっかりしている。 ・整備コストが押さえられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦争遺跡の現場ではないので臨場感が弱い。 ・将来の展示機能の拡張等への対応の自由度に制約がある。 |
| | 新規 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦争遺跡の活用で臨場感があり、大きな平和学習、観光効果が期待できる。 ・現場学習と情報提供が重層化できるので、資源管理と運営が一元化できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・機能整備に付いての資源の損傷や安全性の影響調査・対策を要する。 ・新たな管理・運営体制を必要とする。 ・遺跡が民地にある場合、取得・借用等の措置が必要となる。 ・遺跡が民地にある場合、取得や借用のための時間がかかる可能性がある。 ・新たな機能付帯に資源保存等一定の保 ・活用コストがかかる。 |
| | 新規資料館建設 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦争遺跡の多面的な意義や平和学習に関する自由度の高い整備が可能となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・建設合意、計画、設計、用地確保等かなりの時間を要する。 ・新規施設の建設・管理運営費、専門職員を含めて管理運営要員の確保等を必要とする。 |
| <p>以上の代替案検討から、当面の対応として、 の「既存市立博物館への機能付帯案」を優先的に検討する。この展開によって、市民の地域学習文化施設が市民の平和学習の拠点施設として活用されることで、行政負担が少なく、有効性の高い戦争遺跡情報センター機能が確立できる。</p> <p>中長期的には、平和学習、歴史観光等の流れを考慮して、代替案 、 の機能整備メニューも適宜検討の対象にするものとする。</p> | | | |

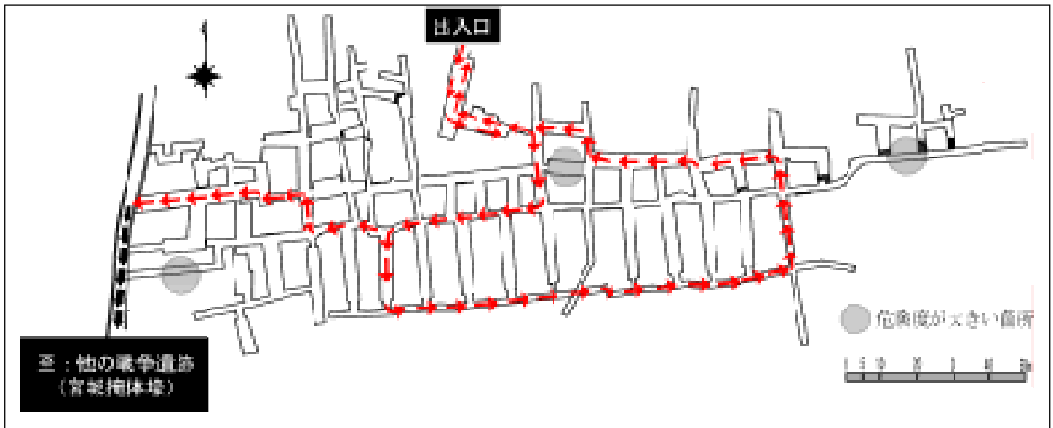
(2) 平和・学習拠点核施設整備事業 - 赤山地下壕戦争追体験壕整備 - (ハード)

| | |
|------------|--|
| <p>目 的</p> | <p>全国的にも屈指の規模をもつ赤山地下壕は、本市における戦争遺跡の象徴的な場の一つであり、誰でもが安全に見学できるように整備・公開し、平和・学習拠点の核とする。</p> |
| <p>方 向</p> | <p>全国の類例からみる平和学習拠点の整備パターンとしては、以下のように分類される。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>箱もの(施設)を中心とするタイプ</p> </div> <div style="width: 75%;"> <p>新設建設物単独利用型 例 東京大空襲戦災資料センター、無言館、沖縄県平和記念資料館</p> <p>既存建物単独活用品 -1 全部利用型(建物全てを平和資料館等に利用) 例 南風原文化センター -2 一部利用型(建物の一部を資料展示等に利用) 例 長野県立歴史館、江戸東京博物館</p> <p>施設と戦争遺跡の併用型(施設展示が中心) 例 ひめゆり平和祈念資料館</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>戦争遺跡を中心とするタイプ</p> </div> <div style="width: 75%;"> <p>内部展示型(戦争遺跡内部に展示し、当時の様子を再現した状態で公開) 例 旧海軍司令部壕</p> <p>公開型(現状のままにした状態で公開) 例 松代象山地下壕</p> </div> </div> <p>赤山地下壕においては、上記の のパターンを基本に考える。なお、現在、安全面で必ずしも十分ではないところも指摘されており、次のような流れの中で整備を進めていく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>都市公園としての位置づけ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>壕内見学ルートの設定</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>案内板・案内資料の製作 (地下壕地図・解説パンフ等)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>管理事務所の設置 (近隣の市施設への併設又は壕入り口部への新設)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>安全確認調査と危険か所の安全性の確保</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>基盤整備 (トイレ・駐車場)</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%; margin-top: 20px;"> <p>戦争遺跡インタープリテーションシステムの導入</p> </div> |

内 容

壕内ルートの設定

安全対策を行った上で、当面の見学ルートとしては、下図に示すようなコースを一つのモデルとして、見学コースの設定を行う。



ルート設定の基本的な考え方は次の点である。

- ・ 管理上の面から、入り口と出口は同じ所とする。なお、一定の管理のもとでは、掩体壕への通り抜けルートが可能なようにする。
- ・ 現在の状態で危険度がたと指摘されている箇所は、ルートから除く。
- ・ 専門家の判断の元、ルート上については十分な安全対策を施した上で公開する。
- ・ 壕内は、ヘルメット着用を義務づけ、入り口部の管理事務所にヘルメットを配備し、入壕者の把握を行う。
- ・ 今後の調査で赤山地下壕の使用実態が解明できたところについては、解説版等の整備を行う。
- ・ 赤山地下壕は重層構造と推察されるので、長期的には山頂部の利用も含めて、徐々に見学ルートの拡大を図っていく。

エントランス、コース内の整備例（松代象山地下壕）



案内板等が設置されているエントランス周辺



壕のエントランス